

## 未知との遭遇

亀田一成

今宵は月より  
空間の収縮  
枝垂桜が  
風に揺れ  
瞳孔に迫る光  
祈りを込める形は  
永遠の形を成し  
私も何か別の身体を  
成していた  
あの人のように  
瓦には猫がいて  
砂塵舞い  
沈黙のち  
僕は透明な異物で  
高周波の呼吸を  
発していた  
そこからは見えない  
何もかも眩しすぎて  
僕は美しい吐血物を  
地上に放ったんだね